

令和6年度 小林市立三松小学校 学校関係者評価書

学校経営 ビジョン	みんなでつくりたい学校：行きたい、通わせたい、育てたい 地域とともにある 三松小学校 1 夢の実現に向けて「対話」を軸に、協同・自立し、仲間とともに高め合う教育活動の推進 2 家庭・地域との「つながり」を大切にした地域コミュニティーの核としての学校づくりの推進 ★ 推進のキーワード みんなで（協同）、まえへ（自立）、つながる（連携）、わくわくいっぱいのみまっつっこに！ （合言葉） きらきら にこにこ ぐんぐん				4段階評価(4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する)
項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等(○成果・●課題・☆改善策)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	重点目標： 基礎・基本の確実な定着及び思考力・判断力・表現力等の向上 ■手段 1 基礎・基本の定着 2 読解力・思考力・表現力等の育成 3 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 週1～2回程度15分間実施している「ぐんぐんタイム」を活用し、学力向上を図ることができた。 ○ 学力調査関係は、すべて予定どおり実施することができた。 ○ 全国学習状況調査（6年）の結果は、国語が全国平均超え、算数は全国平均並みで、昨年度より向上した。また、学習意欲が高いことが分かった。 ○ 県学習状況調査（4年）の結果は、国語は県平均並み、算数は県平均超えて、昨年度より向上した。学力の個人差が大きく、今後も支援が必要であることが分かった。 ○ 校内研修の充実を図り、全職員が「つないで、生かして、分かる」ようになる指導方法の在り方をテーマとした一人一授業を行って指導力の向上を図った。 ○ 12月末現在の図書貸出数が41993冊で、昨年度同時期より8024冊増えた。図書担当や図書委員会の取組、学級での啓発の成果が表れていると思われる。職員の読書活動への積極的な推進の自己評価も3.5ポイントと高かった。 ● 家庭での読書に関する保護者評価が昨年度同様2.3ポイントだった。家庭への啓発も行なっていきたい。 ○ 朝の時間を使った保護者による読み聞かせを計画的に実施していただいた。12月にはクリスマス読書会も実施していただき好評であった。 ○ 表現力向上のために行っている新聞作文欄等への投稿に関する職員による評価が昨年度より0.7ポイント下がったが、新聞以外では、県文集ともだちへの掲載や、読書感想文の入賞など、学習の成果が見られた。 ○ 高学年における一部教科担任制については、理科、音楽、体育、外国語で実施することができた。交換授業はできなかった。 ☆ 次年度は今年度の課題を整理し、さらに児童への教育的効果が上がる方法を模索していく。 	3. 1	3. 8	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 期待通りの成果をあげていただきありがとうございます。各学力調査への取り組みから見えてきた個人差を縮めるのは並大抵なことではないでしょうが、実践されている校内研修などで、子どもたちの学びたい意欲が一層増すことを期待します。 ◇ 学力の向上、学び度の向上が数字に表れています。年々向上している点に、日常の小さな積み重ね、大きな努力があったことが見えます。読解力・思考力・表現力の育成に繋がるキャリア教育や読書奨励の取組にも期待しています。 ◇ 教室や廊下に掲示してある子どもたちの作品を、訪問の度に楽しく見ています。作品の紹介と称賛は、子どもたちの自己肯定感を高めるきっかけになることでしょう。 ◇ ICT機器を活用した授業が増え、子どもたちが慣れた手つきでタブレットを操作している様子に感心しつつも、時代とともに変化する指導方法に対応し続ける先生方のご苦労を感じています。 ◇ 北欧では、タブレットPC活用で学力低下を招いたことが反省され、「紙、鉛筆」の使用が見直されています。「打ち言葉」だけでなく、意図的・計画的に紙に鉛筆で書くことも取り入れてみたらどうでしょう。 ◇ 学習の基本「聴く」ことが重視されていますね。姿勢が良いことは「姿（立腰）」「勢（意欲）」のことです。今後も姿勢よく、授業力アップ、学力向上を目指してください。 ◇ 図書貸出数は増えているものの、家庭での読書が増えていないので、スクリーンタイムの検討等、家庭でのライフスタイルの改善も期待したい。読書は学力向上につながる重要な活動です。正しい文や文章を書くことが苦手な子どもが多くなっているので、「本に親しませる」ことが大切だと思います。
德育	重点目標： 自他の存在、きまり、礼儀の尊重及び豊かな心の育成 ■手段 1 基本的な生活習慣の定着 2 豊かな心の育成 3 いじめや不登校の早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶・返事に関する意識は、職員・保護者とともに、評価が高い傾向にある。全体的には、気持ちの良いあいさつができる児童が多いが、個人差が大きい。今年は、啓発習慣なども行い、成果が見られた。 ☆ 挨拶について、今後も継続指導していく。 ● ボランティアに関する職員評価は前期・後期で伸びが見られなかった。児童と一緒に実践する職員もあり、少しずつボランティアに取り組む児童の姿は増えてきている。 ○ 日々の観察に加え、毎月の悩みアンケートやQ U調査の実施により児童理解に努めた。悩みアンケートを受けて、毎月コスモス委員会（いじめ不登校対策委員会）を開催し、全職員で対応について協議し、共通理解を図った。 ○ 不登校児童や不登校傾向児童への対応については、保護者や関係機関との連携を密に行なう等、解決に向けた取組を進めてきた。SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）、SC（スクールカウンセラー）、SS（スクールサポーター）等も活用し、改善が見られた児童や、現在対応している児童がいる。 ○ SNSに関する指導について、県教育委員会から届くリーフレットを活用した指導を行うとともに、非行防止教室や学校保健委員会を活用し、児童や保護者対象とした外部講師を招へいした学びの機会を設定し、意識の向上に努めた。 	3. 2	3. 9	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 訪問する度に子どもたちや先生方の挨拶から元気をもらっています。また、いつも目にするボランティア活動も、いつまでも続いてほしい三松小の良き伝統です。人数は減っているとのことです、活動をしている子どもに目を向けましょう。花壇の周りをきれいに清掃すると、一層花が美しく見えます。 ◇ 毎朝の子どもさんとの挨拶で喜びを感じています。挨拶をすることは、相手の存在を認めることです。「挨拶は人権の入り口」と考えています。 ◇ 授業中の「はい」の返事が気持ちがいいです。たかが返事、されど返事ですね。 ◇ 褒めること、励ますことが大切にされています。子どもは褒められて、励まされて、多くのことができるようになり成長していくのですね。承認欲求を満たし、自己実現の欲求に繋がるといいですね。 ◇ いじめの認知と対処法の説明を聞き、全職員で素早く対応しているという学校の姿勢を評価します。96.6%の児童が、「学校が楽しい」と回答しており、ほとんどの保護者が「通わせたい」と願っていることは、先生方の丁寧な取組の結果だと思います。未発達の子どもが集まる集団です。必ず問題は置きます。人の心を突き刺す矢ではなく、人の心を温かくする思いやりの教育が、掲示板にも見られます。 ◇ 何をもって德育というか、難しくなってきてる現代のように思います。SNSに関する情報提供と指導は不可欠で、小さな出来事が不調和の火種となってしまうことがしばしばです。その対応は外部講師に頼らざるを得ないと実感します。 ◇ 不登校・不登校傾向に関しての各関係機関との連携により改善があったことはうれしいことです。

令和6年度 小林市立三松小学校 学校関係者評価書

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等(○成果・●課題・☆改善策)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
体育・食育	重点目標：基礎体力、食育推進及び望ましい健康生活習慣の定着 ■手段 1 基礎体力及び運動能力の向上 2 保健指導の充実・病気の予防と治療率向上 3 家庭と連携した基本的な生活習慣の定着及び食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育専科教員が配置され、5・6年生の体育は専科授業を行っている。また、1～4年生も、授業協力や情報提供を行い、体力向上を図ることができた。 ○ 県「体力つくり優良校」に2年連続認定され、表彰されることとなった。 ● 体育専科教員の配置の影響で、体力テストの結果を受けて落ち込みが見られる種目についての改善を図る工夫についての評価が低かった。体力向上プランに基づき、全体で取り組む体制を整えたい。 ● う歯治療を保護者へ啓発しているが、現在の治療率が55%で、昨年度の62.4%を下回っている。今後も啓発を継続していく。 ○ 食育の日を長期休業中に2回実施した。3月のお別れ遠足で3回目の「食育の日（弁当の日）」を実施する予定である。 ○ 食事のマナー（正しい箸の持ち方等）についての保護者評価が昨年度上昇した結果を維持している。さらに向上を図るために、食育だよりや保健だよりなどを活用した啓発を続けていきたい。 	3. 1	3. 8	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 県の体力つくり優良校、2年連続受賞、おめでとうございます。5・6年生は専科の授業、1～4年生も専科教員に授業協力と情報提供を受けていること。様々な取組が成果を上げているのでしょうか。陸上大会でも素晴らしい成績でしたね。これからも子どもたちが楽しく体を動かす習慣がついてくれたらうれしいです。 ◇ 寒さにも負けず、自力登校の子ども。応援したくなります。 ◇ 養護助教諭の健康指導や啓発活動、栄養教諭と連携した食育の推進など、いのちや健康に関することに真摯に取り組んでいると感じました。う歯治療や食事のマナーについても啓発を続けているとのこと。「継続は力」ですね。 ○ 保健や食育の楽しい掲示物が目につき、すぐに見入りました。箸や鉛筆の正しい握り方は、疲れないし、美しく見えます。 ○ 箸の正しい握り方は一生ものです。栄養教諭の取組が良いと伺いました。「食育」の中には、「食物」に関することと、「食文化」に関することが含まれていると思います。「お箸の文化」をしっかり伝えているところがとてもありがたいです。 ◇ 「眠育」の時代です。新しく学んだことは、寝ている間に整理され、学力として身に付きます。体の動きも、寝ている間に記憶され、身に付きます。決まった時刻に寝て起きることができない「睡眠リズムの障害」の若者が増えているそうです。落ち着きのない子供たちが増えている原因に睡眠不足があると、ある小児科医が報告しています。「寝る子は育つ」です。 ● 保健指導としてのう歯の治療率低下は、とても懸念すべきことです。むし歯は病気です。放っておいて治るものではありません。決して治らない病気を放置していることを自覚してもらう取り組みをさらにお願いします。
特別支援教育	重点目標：特別支援教育の充実 ■手段 1 学校全体で取り組む支援体制「全ての教職員が取り組む特別支援教育」 2 特別支援学級児童に係る交流学級と協同した支援 3 就学指導の計画的実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修の充実を図り、全職員が児童の個別最適な学びを意識した指導や配慮について学ぶ機会を設けた。 ● 職員の児童理解や対応力等の特別支援教育力の向上に、さらに努める必要がある。 ☆ 校内研修の充実、オンライン講座等の有効活用による学びの機会を確保し、スキル向上を目指す。（教育研修センター提供のオンライン研修を、特別支援教育コーディネーターが毎回受けた。） ○ 特別支援教育支援員による個別の支援の充実を図るため、個別の教育支援計画・指導計画の作成や活用の充実と併せた配置計画を特別支援教育部の担当者を中心に行った。 ○ 校内支援体制の整備を特別支援教育コーディネーターが相談窓口となり進めていった。また、関係機関（教育と福祉の連携）、小林小学校に在籍しているエリアコーディネーターや小林中学校に在籍しているエリアメンター、小林こすもす支援学校のチーフコーディネーターからの助言も有効活用した。 ○ 小林こすもす支援学校と連携し、居住地校交流6名実施できた。担任同士で事前打ち合わせを行い、交流及び協同学習の充実に努めた。 ○ 特別支援学級児童の実態を交流学級担任も把握し、協同・一貫した指導・配慮が行えるようにした。 ☆ 情報交換の機会を増やし、さらに連携強化することで児童のよりよい成長と適応を高めていく。 ○ 就学指導については、行動観察→結果分析→指導や配慮方法の提案（保護者面談）の流れを作り、計画的に行った。 	3. 3	3. 9	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「全ての教職員が取り組む特別支援教育」を目標に、一人の教職員に負担を押し付けず、孤立させない取組が今年度も続いていることで、「働き方改革」の視点からも大変うれしく思います。 ◇ 学校評価項目の「教室内の整理整頓・教室前面の掲示・すっきりした黒板・落ち着いた学習環境整備」の数値が前回より0.4ポイント上昇して3.7になっており、各教室の掲示を見て「なるほど！」と思いました。掲示物が気になる「感覚が優れた」子どもたちの思いを大切にする取組だと思います。 ◇ 校内での取組に加えて、小林こすもす支援学校と連携した居住地校交流を始め、関係機関と連携した様々な事例を聞き、積極的に取り組んでいる様子がよく分かりました。 ◇ 授業を見ていて、個別に寄り添いながら、褒めて励ます教育活動が行われていました。 ◇ 溫かい愛に包み込まれた子どもたちでした。子どもたちの自立への支援をみんなでしていきましょう。～助け愛、認め愛、励まし愛、支え愛～ ◇ マンツーマン、対面での授業に優しさを感じます。 ◇ 特別支援学級の先生方の配慮や寄り添いに感激しました。一人一人の能力、習熟度に沿った指導ができていました。子どもたち笑顔が多いと感じました。 ◇ 交流学級担任との連携や、各機関との連携、居住地校交流などに取り組んでいただき、子どもたちの学校生活が充実しているのではないかと思います。これからもよろしくお願ひします。
次年度の方向性についての校長所見	知育・德育・体育・食育・特別支援教育の調和のとれた児童の育成を目指し、職員が目的意識を明確にもちながら、共通理解、共通実践を図ってきたことで、学校の自己評価は各項目3.6以上となり、一定の成果が見られた。今後は働き方改革をさらに推進しつつ、基本的な学習・生活習慣の定着を図り、特に学力向上や生徒指導面で今年度明らかになった課題の解決を目指したい。そのために、教育目標「学ぶ三松・鍛える三松・思いやりと誇りを持つ三松」と「きらきら・にこにこ・ぐんぐん」をリンクさせ、三松魂もうまく取り入れながら、新たなプランと具体的な取組事項を決め、地域や保護者の皆様と、地域とともにある学校づくりを推進していきたい。				